



(1) ウンスラズ附近に於ける敷設列車

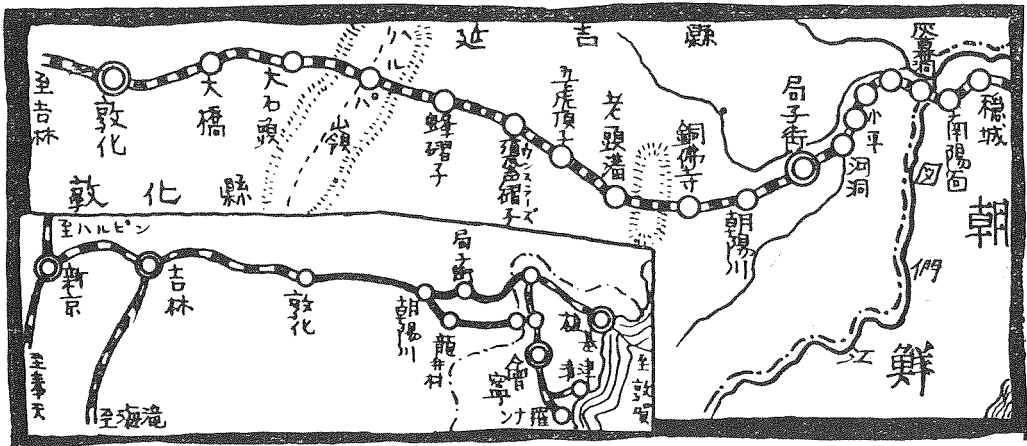
敦圖線は如何にして建設されたか

在 滿 洲 山 野 邊 彌 太 郎

『目下建設中の敦圖線 190 軒の軌條は二十日全線連接し圖們江鐵橋を渡りて朝鮮圖們東部線に連絡し得るに至れり。尙引き続き諸工事

の實施を要するものあるも五月下旬より取敢ず假營業を開始し得る豫定なり』

四月二十日、滿洲國鐵道部は以上の如く發





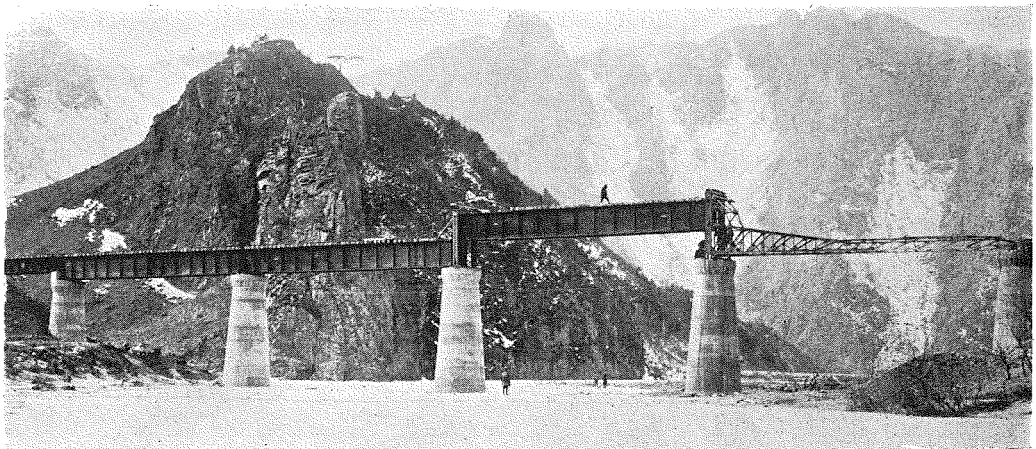
表いたしました。即ち懸案となつてゐた新京より吉林、敦化を経て朝鮮雄基に至り、裏日本と連絡するところの、日滿兩國の産業及軍事上重大な使命を持つ延長700 軒の一大國際鐵道は、本線の竣功によつてまさに開通せられんとしてゐるのであります。

私は所屬部隊に動員令が下り、昨昭和七年四月から今年の三月まで滿一ヶ年間、間島方面に出動し、その間主として老頭溝、ウンス

ラーズ地方の匪賊討伐並に鐵道建設工事の守備について居りましたので、同線建設工事には多少の見聞を得て居りますから、茲に主として寫真によりまして、敦圖線の建設は如何にしてなされたかをお話したいと思ひます。

敦圖線はその名の示す通り敦化より老頭溝局子街等を経て圖們江に達する鐵道で、滿鐵會社が滿洲國政府から敷設を委託された工事です。この鐵道によつて吉林と朝鮮の會寧も

(2) 老 頭 溝 輸 樹 川 間 の 架 橋





(3) ウンスラールズ全景

亦結ばれますので、別に吉會鐵道とも呼ばれて居りますが、吉林敦化間は先に吉敦鐵道として開通し、圖們江岸老頭溝間には天圖線と稱する輕便軌道がありました。それが今回の計畫にとつて廣軌に擴築され、敦化老頭溝間を新設線で連絡し、別に朝陽川より局子街を経て圖們江西岸灰幕洞に達する線路が建設されたのであります。

この建設工事は文字通り身命を賭しての工事でありまして、其處には幾多の尊むべき犠牲と甚だしき困難がありました。匪賊の跳梁未だ息まざる彼の未開地に“Iron Hors”の疾走するのを見ることが出来たのは、生命を以て守備したる皇軍の奮闘による處甚だ大なのであります。寫眞に就て説明しますと、(1)は敷設列車の壯觀、内地の人々には一寸

(4) 老頭溝附近敷設工事守備中の皇軍





珍しい寫眞でせう。機關車の前に起重機臺車があつて、コンベヤーによつて後方の貨車から運ばれる枕木、レール等を送り出し片つばしから犬釘を打つて前進します。(3)は皇軍守備隊本部のあるウンスラズ全景。沿線第一の文化村です。左方は守備隊兵舎、その前方の小丘には、注意して見られるなら二つの木標が発見されるでせう。これこそ敦圖線實測中、王徳林軍のために虐殺された滿鐵

の測量隊員伊藤、中村兩氏の尊い犠牲の記念碑です。鐵道はこの寫眞の手前、枕木の積んである邊に敷設されました。(4)は老頭溝附近に於ける皇軍の活動、匪賊が何時襲來するか分らないのでこの様にして全線を守備してゐるのです。(5)は皇軍に歸順せし紅槍會匪賊で、紅い總の槍を提げて機關銃の彈丸雨と降る中へ飛び込んで來る、この地方に於ける最も豹悍な輩です。(終)

(5) 皇軍に歸順せしハルバレー附近の紅槍會匪賊

